

# 人権学習展開例〔第4学年〕



1 主 題 地域に学ぶ

2 教材名

## 5 マイタウン博士になろう

3 主題・教材について

地域を知り、地域をよりよくしようとする営みは、まさしく人権の実現に向けた活動であり、そこから学ぶことは人権感覚を磨く上で大きな役割を果たすと考えられる。

子どもたちは、第3学年時に「まち（校区）たんけん」を行い、自分たちのまちについて調べることを通して、様々な人と出会っている。

この教材では、さらに詳しくまちについて調べることから、まちをよりよくしようとする具体的に取り組んできた人々がいたという事実気づかせたい。また、そうした人々が、どのような願いをもち、どのようなことを大切にしてきたのかを知る（考える）ことから、自分の住んでいる地域を大切に思う心を育てたい。さらに、住みやすいまちをつくるためには、そこに暮らしている人たちが協力し、努力することが必要であることに気づかせたい。  
(関連教科・領域：社会、総合的な学習の時間、特別活動)

4 ねらい

- まちに出て、人やものと出会う中で、まちの歴史には人々の様々な願いが込められており、それが積み重なって今があることを知る。
- まちについて詳しく知ることで、自分が暮らすまちを大切にしようとする。

5 指導計画

第1次 自分たちのまちについて調べる。

- ① 自分たちのまちについて知っていることを話し合う。
- ② 「マイタウン博士」になることを目指し、計画を立て、調べる。

第2次 調べたことをまとめ、発表会を開く。

第3次 調べたことを他学級・他学年、学校外の人に向けて発信する。

6 展開例（第1次②以降省略）

第1次①

○ねらい 自分たちのまちについて知っていることを話し合う。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	「まちたんけん」をふりかえろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第3学年時の「まちたんけん」で学習したことを思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前に連絡しておき、作成物が残っていたら用意させる。</li> <li>• 第3学年時の資料があれば提示する。</li> </ul>	第3学年で作った絵地図 等
展 開	自分が暮らすこのまちのことをどれくらい知っているのだろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「マイタウン博士」になることを目標に、地域の人、もの、行事等で知っている情報を出し合う。</li> <li>• 情報を地図に書き入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たに見たことや聞いたこと、他の人があまり知らないようなことがあればより望ましいことを伝え、「マイタウン博士」を目指す気持ちを盛り上げる。</li> </ul>	校区地図 等
ま と め	自分たちのまちについて調べたいことを決めよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地図をもとに調べたいことを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域を大切にしている取組に焦点を当てさせたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習をふり返り、自分が調べたいことを整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次時は、グループに分かれて調べたことを伝える。</li> </ul>	

私たちの周りには、長い歴史の中で力を合わせ、知恵を出し合いながら様々な困難を乗り越え、住みよい地域社会をつくろうとしてきた多くの足跡が残っています。先人たちの残した足跡をたずね、当時の暮らしの歩みを人権という視点から見つめ直すことは、人権が尊重される地域社会を築いていく上で、大きな意味があると考えています。

### 地域や生活の中にある身近な問題を通しての学習

部落問題や様々な人権問題について学習を行う際に大切にしなければならないことは、人権問題を自分の問題として引き寄せて考えていくことです。そのためには、地域社会や生活と関連づけながら学習を展開することが必要です。

地域の課題や歴史を教材化することは、観念的・一般的な学習に陥りがちな人権問題についての学習を、身近でリアルなものとして根付かせることができるだけでなく、児童生徒が地域や生活の中にある身近な問題を通じて、人権問題と自分とのかかわりを学び、その解決に向けて創造的に取り組む態度を育てるためにも重要です。

地域教材を通しての学習は、直接的に部落問題、あるいは様々な人権問題の内容に関するものに限られるわけではありません。地域の人々の生きざまをとらえ、人のもつ優しさやあたたかさ、人の痛みや苦しみに共感できる鋭く豊かな感性を醸成し、差別を温存してきたものの見方や考え方を克服する力を高めていくことが必要です。例えば、教材化の内容としては、以下のようなものが考えられます。

#### 地域の教材化の内容（例）

- ◇地域の人々、文化、自然等とのふれあいを通して、それらのよさや豊かさを感じられるような内容
- ◇地域の人々の暮らしや仕事、生きざまを共感的に捉えられるような内容
- ◇高齢者や障害のある人、外国人等、様々な人々と共に地域で暮らしていることに気づくことができるような内容
- ◇高齢者や障害のある人、外国人等との交流を通して、互いの人権を尊重し合うことの大切さを学ぶことができるような内容
- ◇地域の中に存在する人権にかかわる問題について考えることができるような内容
- ◇地域づくりや地域における人権確立のために努力した人々の生きざまに学ぶことができるような内容
- ◇一人一人の人権が尊重される地域づくりについて考え、それに向けて行動することができるような内容

学習の展開に当たっては、生活科、社会科、道徳、総合的な学習の時間等を中心に行うことが望まれます。ゲストティーチャーを招いたり、フィールドワークや聞き取りに出かけたり、地域の資料館や博物館を利用したり、地域の行事に参加したり、また、作業的活動、体験活動、調査活動、表現活動等を取り入れたりするなどの創意工夫が求められます。

どの学年でどのような内容をおさえるのか、どの程度まで進めるのかといった点については、学校・児童・地域等の実態によって一様ではありませんが、それぞれの学年における指導計画、さらには学年間の関連性、系統性を考慮した年間指導計画を作成し、指導内容を明らかにした実践を行う必要があります。

## 総合的な学習の時間を活用した地域学習の展開（例）

- ◇「さがしてみよう マイタウンじまん」  
様々な「マイタウンじまん」（産業・建物・自然・文化・歴史等）について調べ、「マイタウンじまん発表会」を行う。
- ◇「地域の仕事名人と出会おう」  
様々な分野の「仕事名人」と出会い、仕事の喜びや苦労、思いや願い、生きざま等、学んだことをもとに「仕事名人新聞」をつくる。
- ◇「地域のすてきな人と出会おう」  
一人一人の人権が尊重され、豊かなつながりのある住みやすい地域づくりのために活動をしている人たち（地域の安全を守る活動をしている人、様々なハンディのある人たちの生活を支援している人、地域の環境を守っている人、地域のよさを伝えている人等）の活動について調べ、地域の一員として自分にできることはないか考える。
- ◇「タイムスリップ地域じまん」  
地域の昔の様子（産業・建物・交通・自然・風習・生活等）について調べたことをもとに「地域じまんポスター」を作成し、ポスターセッションを通して地域の人々に発信する。
- ◇「自分探しの旅に出かけよう～いろいろな生き方との出会い～」  
地域に住むいろいろな人の生き方（地場産業振興に取り組んでいる人、日本に来て外国語講師として働いている人、地域ゆかりの踊りを伝えることに取り組んでいる人等）と出会い、学んだことを自分のこれからの生き方にどう生かしていくかを発表し合う。
- ◇「私たちの人権尊重のまちづくりプラン」  
地域の中にある人権課題について調べ、解決に向けた方法について考える。「人権尊重のまちづくりサミット」を開催し、まとめたことを発表する。

- 地域の歴史資料やフィールドワークについての問い合わせ先  
奈良県立同和問題関係史料センター  
奈良市大安寺1丁目23番1号  
TEL：0742-64-1488 FAX：0742-64-1499  
<http://www.pref.nara.jp/6507.htm>